

〈午前 11 時 57 分 休憩〉

〈午後 1 時 00 分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。〔13番 中村 実君登壇〕

○13番（中村 実君）

創生クラブの中村でございます。

外国籍市民と外国人観光客の対応について、1回目の質問をいたします。

糸魚川市は、平成21年に世界ジオパークに認定されるとともに、国が進めるインバウンド政策により、少しずつではありますが外国人が訪れるまちとなってきました。また、当市では、企業で働く中国や東南アジアの方々との結婚も進み、多くの人たちから糸魚川市に移り住んでいただき、町なかでも外国籍市民が見られるようになりました。しかし、観光案内板の外国語表記の不足や言葉の壁によるコミュニケーション不足が見受けられるとともに、市内在住の外国籍市民やその子供たちは、学校生活での相談や授業、また、生活する上で必要な医療を受ける際の言葉の面でも困難を抱えているという声も聞こえてきます。

今後、外国籍市民やインバウンド施策による観光客へのさまざまな対応を、糸魚川市としてどのように考え、どこまでのレベルを目指しているのか伺います。

- (1) 案内板やパンフレット、市民向け通知書など、外国語表記の充足率はどうか。
- (2) 外国籍市民が生活する上で必要な学校、医療機関での外国語対応施策の定期的な検証を行っているのか。
- (3) 外国人観光客向けの取り組みはどのように行っているのか。
- (4) 医療通訳はどのような体制で行っているのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、主要な案内看板やパンフレットは、英語併記を基本に対応いたしております。

また、市民向け通知書につきましては、外国語表記に対応できておりませんが、外国籍の方を対象とした生活相談事業や日本語セミナーを実施いたしております。

2点目につきましては、関係者からのご意見やご要望により、随時見直しをしているところであります。

3点目につきましては、市内観光関係者で組織する糸魚川インバウンド推進委員会を中心に、ターゲットとする欧米やアジアの国別に戦略を定め、国や県など関係機関と連携しながら誘客の推進、受け入れ体制の整備等に取り組んでおります。

4点目につきましては、糸魚川国際人材サポート協会に業務委託いたしてありまして、本人や家族、医療機関の要請により、通訳及び日本語スタッフコーディネーターの2人体制により対応いたしてあります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

順番が少し入れかわるかもしれませんが、よろしくお願い致します。

まず、医療通訳について伺います。

12月1日現在の糸魚川市の人口は約4万3,700人ほどだということですが、5万人規模の市で医療通訳を行っている市は全国でも珍しく、先進地として大変注目を受けております。ご存じのとおり医療通訳とは、日本語の話せない外国市民が病気になり、診察を受けるときに患者の病状をそのまま正しく医師に伝え、医師の診断を、言葉を変えずそのまま訳して伝えるという大変な、高度な通訳であります。医療通訳を行うようになるには、年数回の研修会を受けていますが、どのような研修を年間に何回行っているのか、また今年度の予定があればお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

医療通訳におきましては、糸魚川国際人材サポート協会の皆様のご尽力によりまして、先ほど議員からもお話がありましたように5万人都市規模ではやっているとところは珍しいということでございます。当新潟県内でも糸魚川市が先進地ということで、ようやく新潟市のほうで今年度から始まるということで、糸魚川国際人材サポート協会の皆様から先進的な取り組みをいただいているところでございます。

医療通訳における研修としましては、糸魚川国際人材サポート協会のほうで昨年度はM I C 神奈川のほうから講師を呼んでいただいて、研修等をしていただいているというお話も聞いております。今年度につきましても、今年度からは糸魚川市のほうがやはり医療通訳の技術の向上を図っていただくという部分もありまして、1回分だけお願いをすること、市のほうからその研修会を開催し、糸魚川国際人材サポート協会の皆様から受けていただく計画としております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

年に1度ほど研修会を行っていますね。私もよく内容はわからないんですが、何回か出させてもらったことがあるんですが、そのほかにIISA独自として年間5回ほどやっぱり医療通訳に対する講習会を行っています。やっぱりこのような医療通訳を今後も持続していくとしたら、人材の確保が大事だというふうに思いますが、ことしは市のいろんな手続の通訳依頼がふえてるということで、それに向けた研修を2月4日に行うという話を私聞いているところではありますが、今回の研修はどのような内容なのか、わかればお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

現時点では、内容のほうはまだ詰まってないということで、ここでちょっと説明できる内容はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

2月4日にヒスイ王国館であるという私のところに案内のメールが入ってたもんですから、まだちょっと私も内容を聞いてないんで伺ったとこなんですが、いろんなケースがありますので、そのケースに合わせた講習を行っていく必要があるなというふうに思っております。

ご存じだと思うんですが、過去に台湾人旅行者が白馬で体調を崩して救急車で糸魚川へ運ばれたというケースがありましたが、それは糸魚川へ来て亡くなってしまった。そうしたときにIISAのほうで検視、警察の調査、遺体の処理・処置、そのまま台湾へ運ぶか糸魚川で火葬するか、どこの葬儀屋を頼むのか、また、市への書類の作成や病院の書類、それから支払い、家族との間なり2日間ひまざいをしたということではありますが、観光客はコミュニティ通訳の範囲内じゃないんで、これは全て無償ボランティアなんですよね。そうすると本来ならば、このようなことは糸魚川市へ来て起こったことだから市が担当するのかわかりませんが、また今後、このような例も起きると思うんですが、このような事例を受けて、市として何か対応・対策をとってきたのかどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

当時の台湾の観光客が亡くなった件については、IISAの皆様には大変お世話になりました。今、中村議員おっしゃったように2日間にわたって医療機関なり葬儀屋との間を取り持っていただ

+

いたり、いろいろお世話になりました。そのときの経費については、何とかご親族の方から、病院等の費用についても支払っていただいたというお話は聞いております。

ただ、今後そういうような、市に在住している方の外国人の方についての医療通訳等については、体制整備が進んできつつあるところではございますけども、いわゆる訪日している外国人、観光客等でおいでのなる外国人の対応については、まだまだ体制ができてないということで、今後とも関係者の皆様と相談しながらどういう体制がつくっていけるのかを含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

こんな件は、そんなにあることではないと思うんですよね。特異な件だと思うんですが、ただこれからふえる、外国人観光客がふえることによって、いろんな事故や事件までいくのか、そういうものがふえてくると思うんですね。そのようなときにやはりコミュニティ通訳じゃないから無償だよとか、そういうことをやっぱりしていると I I S A 自体がいつまでも継続できないというふうに私思うんですよ。やはりこういう組織はなくすわけにはいかない、これからの糸魚川市としてなくすわけにはいかない組織だと思うんで、やはりその辺の取り組み、担当課としてどのように捉えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

I I S A のように、いわゆる英語をしゃべれる方はいらっしゃっても、通訳までできるという方たちが組織している団体というのは、非常に貴重な、糸魚川市にとっては一つの宝というべき存在かと思っております。どちらにしても I I S A の皆様と今後、団体の継続も含めてどういう形で市として支援できる部分があるかも含めてお話をさせていただきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

もともと I I S A というのは、2009年5月に設立されまして、当時の糸魚川在住の外国人数が380人と多かった、ちょうどときだったということなんですけど、病院の受診時に医師が病状を的確に伝えることができなくて医者が苦勞していたという、そういう姿やお嫁にきたお母さんが出産・子育て、言葉や習慣の違いから苦勞している姿を見まして、多文化共生社会の構築を、必要性を感じ、市民と企業、そして商工会議所が中心になって糸魚川国際人材サポートセンター（I I S A）を設立したという経緯があるわけです。現在は24の企業と23名の個人会員で、その会費で

何とか賄っているわけですが、やはりいろんなことを考えると、これから行政が大きくこのIISAにかかわっていく必要があるのではないかな。ある一定の決め事だけではなくて、幅広く活動してもらうには、やはりそれなりの対策も必要だと思うんですが、まだ私、行政が余りかかわってないんじゃないかなというところが見えるもんですから、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

先ほど申しあげましたように、今後、IISAのほうとお話し合いをしながら、どういう形、単なる金銭的支援というよりもどういような事業をしていただくようなものがあるかとか、そういうのも含めて支援の方法等を相談してまいりたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

大きく分ければ、一番大きい部分とすれば、医療通訳なんですよ。

ただ、医療通訳は病院から要請がある、また市から要請があつて通訳として、その国別に出かけていくわけですが、病院のほうの負担がないんですよ。私ちょっとそれおかしいなというふうに感じてるんですが、やはりもし病院のほうも負担をしていただければ、市から出してくれということじゃないんですけど、やはり病院の負担も今後、市からしっかりとお願いをしていく必要があると思うんですが、もしそれが無理ならもう少し市のほうの協力も上乘せしていただきたいなと思うんですが、その辺はどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

医療通訳、コミュニティ通訳については、1回当たり6,000円ということをお願いしております。IISAのほうの内規ですと通常の通訳で1時間当たり6,000円だよということもお聞きしております。それからすると1時間でなかなか1回の医療通訳は終わらないのかなというふうには考えております。その辺も含めてIISAのほうとまたお話をさせていただきたいと思います。ただ、病院からの負担という部分については、もう少し利用状況、今年度から、今まで糸魚川病院と国保診療所、谷小児科、なかむらこどもクリニックの4病院だけだったんですけども、今年度から歯科を除く全診療所を、この医療通訳の対象病院としましたので、その辺の利用状況も踏まえながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

先ほども申しましたけど、外国人観光客の場合は直接行くんで1回6,000円というのは当てはまらないんですが、ただ病院とすれば通訳が入ることによって適切な治療ができる。また、事務方の負担も減らすことができる。外国人旅行者の受診は、私もよく知らない、点数が高いらしいんですよ。そうすると結構病院のメリットはあるんですが、ボランティアの通訳のほうには何もメリットがないということだと。だから、その辺をよく病院と話をさせていただければなというふうに思うんですが、もう一度どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

その点につきましては、庁内関係課と協議をしながら、また検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

これはインバウンドを進めていくには避けて通れない部分だというふうに私思うんです。これからもどんどんと外国の旅行者がフリーで入ってくると思うんですよ。そうしたときにやはりけがとか病気が必ず発生するというふうに思います。そういった中でやっぱりそのような通訳の人の必要でありますし、いつまでもボランティアというわけにもいかないんで、いっばいくださいということ言ってるわけじゃないと思うんですが、やはりしっかりと目を向けて話を進めていただきたいというふうに思っております。

また、先ほども1回6,000円と言いましたけど、6,000円が高いか安いかわからないんですが、ただ時間的に、病気によっては通訳して受付して病室へ入って、また出てきてその診断を受けて、結果を聞いてという夜までかかるというすごく長いスパンでの通訳も必要なんですけど、それにしても6,000円、それで、これはあれですよ、日本の糸魚川在住の人ですよ。それから、それが4回しか使えないという、4回しか利用できないという制度なんですよ。4回で済めばいいんですけど、やはりもう少し単価はともかくとして4回のを5回、6回利用できるようなそういう体制はとれないのですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

医療通訳につきましては、子供に係るものや妊産婦さんに係る医療通訳に関しては、その4回という制限はなく、無制限ということで取り扱わせていただいております。4回という制限があるのは、大人の方の外国人の方が医療通訳、行政通訳される場合に4回ということで制限を設けさせてもらっております。といいますのは、やはり日本に来て大人の方が住むからには日本語のほうも一生懸

命覚えていただきたいという部分もありまして、やはり無制限にしますとそういう部分の意欲も含めて少しなくなるんじゃないかという部分もあって、回数制限を設けさせていただいている部分でございます。

ただ、4回がいいのかどうかという部分については、また受けてる方の実情等をお伺いしながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

無制限にということをおっしゃるわけじゃなくて、やはり4回だとちょっと少ないかなという、病状によってはもう少し、もう1回、2回行かなきゃいけないときもあるかなというふうに思いますので、やはり言葉が通じないとなかなか腹が痛いと言っても腹のどこが痛いんだというのも伝わらないし、先生もどういうふうに伝えたらいいのかわからない部分もあるので、ある程度の完治するまで、もう1回なり2回なりふやしていく必要もあるのではないかなということで質問したわけですが、今後また話をしながら何回が妥当なのかというところを進めていただきたいと思います。

次に、外国人観光客の取り組みについてですが、交流観光課が中心になって外国人の誘致に力を入れたおかげで、今ほども言いましたけど外国人が大変多く見えているというふうに思っております。

ただ、糸魚川市を訪れた外国の人たちが糸魚川を観光して満足して帰られたのかどうか。観光課としてそういったお客さんにアンケート調査や聞き取り等を行ったのか、やったとしたらどのような回答があったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

交流観光課では、秋に観光動態調査ということで観光客からアンケートをとっておりますが、現在のところ日本人だけになっております。議員ご指摘のとおり、今、外国人がふえてる状況の中で、今後、外国人に対する調査をしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

私も外国の方のアンケートでちょっと聞いたことなかったんで今質問したんですが、やはり国が進めるインバウンドに合わせて糸魚川市も一生懸命動いているわけですから、受け入れ体制が私まだ整ってないように思うんですね。そうしたところで外国の観光客が何を求めて糸魚川へ来たのか、

そして、求めたものが糸魚川にあったのかというところをしっかりとアンケート調査をしていく必要があるなというふうに私思っています。それに向けて、例えば外国のほうへ糸魚川のPRというのはどのようなところをPRして、それを見た外国の人が糸魚川へ来て、感動したのかどうかということなんですが、海外のほうへどのようにPRしているものですか、糸魚川市の観光に対して。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には4地域を考えております。1つ目が欧米とオーストラリア、2つ目が台湾と香港、3つ目が中国、4つ目が韓国ということであります。

まず台湾につきましては、昨年来からうちの職員が北アルプス日本海広域連携会議の皆さんと一緒にサイクリングの関係の誘致ということで、職員が出向いております。

一方で、台湾の旅行会社や、あるいはブロッガーといった方々に糸魚川に来ていただくといった取り組みを進めております。

それから英語圏のほうになりますけれども、英語圏につきましては、うちにアメリカ人がおりますので、アメリカ人が中心になってSNS等の情報発信に努めておりますし、今のうちの職員、男性なんで女性の目線も必要だということで、市内にお住まいになっているイギリス人からも、あわせてSNSでの情報発信にご協力をいただいているという状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

自転車が好きな人は、それはそれとして、この自転車道があるんでいいと思いますが、やはり先ほどもちょっと東野さんが触れたと思うんですが、日本の田舎の風景とか、そして食べ物、そして日本文化やいろんな体験を求めて来る人がいるように思うんですが、それをやはり教えてやるには街歩きガイドの養成や街歩き情報をもう少しアピールしていく必要があると思うんですが、ガイドや情報、糸魚川市ではどのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

いわゆる通訳をできるガイドということになりますと、国のほうで資格制度を設けております。それが通訳案内士という制度であります。国の試験であります、非常に難易度の高い試験ということで、有償で通訳をしてガイドをするというのは非常に困難な状況になっております。こんな中で国ほうでTOPといった取り組みを進めてまいりましたけれども、来年早々から地方自治体が研修を行うことによって、地域限定であります、通訳をできる、通訳案内をできるといった制度が始

まりますので、糸魚川市としては、この研修制度をなるべく早く取り組んで通訳のできる案内ガイドを養成していきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

資格が要するというので大変ハードな取り組みだというふうに思うんですが、日本人というのはどっちかという外国の人が来ると話されるのが嫌なんで逃げてしまうという、そういうのが見受けられますわね。ただ、観光地、先進地へ行くと、いわゆるじいちゃんというより、ばあちゃんのほうが手ぶり・身ぶりで話をしているという姿をよく見られるんですが、やはりそういうところに最終的には落ちついてもらえればなというふうに思うんですが、そういうふうになるとやはりプロよりは地域を巻き込んでどのようにやっていくのか、そういう人たちの養成をどのようにやっていくのか。英語が通じなくても何か見ると何とか通じてるところがあるんですが、その辺の対策はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ことしの1月、2月、冬ですけども、香港の子供たちが糸魚川を訪れました。その中で上南地区で笹寿司の体験をさせていただきました。まさに通訳はありましたけども、地元の方々がボディーランゲージと申しましょうか、手ぶり・身ぶりで香港の子供たちと会話をして、笹寿司づくりを楽しんでおりました。

その結果、やっぱり子供たちにとっても非常に日本のいい経験ができたというように思っております。議員ご指摘のようにもちろん通訳案内士も必要ですけども、地域の皆さんがコミュニケーションをとっていきける、それは特に言葉がわからなくてもある程度わかればコミュニケーションができるといったことを自信を持ってもらえる機会をふやしながら、議員ご指摘のような環境になっていけばいいかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

もう2年ぐらい前になりますかね、私たちの地域でもIISAの方たちから10人か15人ぐらい人間を集めてということで集まって、そこへ外国の方3人連れてこられて、3班か4班に分かれて、いきなり話しかけられた。それをどういうふうに話を返していくか。やはり言葉が通じないんで、もう書くか手ぶりで何とかつながるんですよね。やっぱりそういう講習もしっかりと受けていく必要があるというふうに私思っております。

また、じゃあ例えば災害が最近多いんですが、災害があったときに外国人の方々に、在住者です

よね、糸魚川の外国人市民、その人たちにはどのような対応の仕方を、避難をどうすればいいとかというそういうマップみたいなものはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

マップという今ご質問でありますけれども、外国人観光客の皆さんへのそういう避難とかということであろうかというふうに受けとめております。防災関係で申しますと、看板というものがございいます。そのくくりの中では、例えば避難所の表示とか、それから海水浴場に設置してあります津波避難の案内看板とか、それから焼山の関係ですと今、おおむね山頂から1キロメートル以内を立入禁止にしたり、そういうところの表示などについて英語表記などを行っております。

また、市内各地区に海拔表示ですね、津波の関係で海拔表示というものを配付をさせていただいたりしております。その中では、3カ国語表記というようなことも一部実施をしております。

マップ的なものであります。これにつきましては、新潟焼山火山防災マップというところで、平成16年、これは旧糸魚川市の時代でありますけれども、英語版を発行しております。そのほか外国語対応というところは、現在のところないんですけれども、例えば糸魚川市のホームページから入っていただきますと、新潟県のほうで多言語防災パンフレットというようなものを見れるような形になっております。ここは7カ国語に対応したものであるというふうになっております。その辺もご活用いただければなということで、まだまだ十分な対応ができていないところではありませんけれども、今ご紹介したようなところが外国語関係というところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

こういうハンドブックね、これは全然、違う内容のハンドブックなんですけど、やはり緊急時対応ハンドブック、こういうものもやっぱり、簡単なものでいいんでね、例えば今ほど言われた津波のときはどういうふうに避難したほうがいいよとかというのを、焼山もそうですけど多言語で書くということが、それで糸魚川の外国人の方に渡しとくというのも今後大切になると思うんで、またその辺も検討してみてください。

先ほど課長のほうから話がありましたサイクリング、これはマリンドリームのほうに最近走っていくのが本当によく自転車道見受けられるんですが、大体一直線でマリンドリームへ行ってしまうと、風景を見ながらですがね。それでは地元にお金が落ちないというふうに私は思っております。それとやはり外国人観光客もそこからちょっと外れて町なかの散策とかそういうのも楽しみたいんじゃないかなというふうに思うんですが、例えば糸魚川を出て自転車道をずっと走って、一番最初に施設があるとすれば能生事務所とか、商工会があるわけですが、そういうところに呼び込むような何か策をつくって、そこで町なかの情報をもらうことによって、時間帯もありますけど町なかで

食事をしたり、また町をずっと歩きながら弁天岩、そして港へ寄ってマリンドリームへ行くというルートもありますので、今のままだと自転車道を通り切ってマリンドリームまで行ってしまおうというふうに私思うんですね。今後、だからその辺の対策を考えていく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご指摘のとおり地域にどう外国人が来てもお金が落ちていくかといったシステムが非常に大事になってこようかというように思っております。現在、頸城自転車道のほうでは、コンビニを中心にサイクルステーションを今置かせていただいております。今後でありますけれども、マップ等で地域のお店はこんなところがありますよと、サイクリングをする中で寄ってくださいよといったような取り組みを今進めたいというように今、県と市と一緒に進めて取り組を進めております。その中で今ご指摘の部分について検討していきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

そうなんですよね。外国の方が自転車に乗ってくると途中で休みながらおにぎり食ったり、弁当食ったり、そういうところへ寄って。そうするとマリン行ってももう腹がいっぱいで食べれない。そういう情報が、何とかな、マリンドリームへ行って食事ができますという情報がないんですよ。それと日本へ来てそうでしょうけど、いろいろなところへなかなかわからなくて入れないというのがある。結局簡単だからコンビニで求めて、そこで終わってしまうと。せっかく日本の、例えば能生へ来れば町なかに結構ラーメン屋さんとかいろんなものもありますので、日本の食事もできるのかなという、ちらしずしもありますね。そういうところにやっぱり誘導するような仕組みをとっていく必要があるというふうに思っております。

それで今度はマリンドリームへ到着しても、マリンドリームの中も案外、私もずっと見ますけど看板がないんですよ、外国表記の。そうすると多分あそこは食堂なんだろうと思うようなところがあっても、そこにも看板がないし、多分メニューもないんですよ、外国表記のメニューがない。そうするとせっかく来ても入りづらいという、その辺をもう少し上手にPRしていく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今ご指摘の中でメニューという話がありましたが、私ども当課におります外国人が市内のお店屋

さんを対象に今、メニューをつくりましょうといった講座をやらせていただいております。その講座の開催がまだ知られてないといった部分もあろうかと思っておりますので、それについてもより知ってもらうような取り組みをしていきたいですし、今言われたマリンドリームを含めて市内のお店屋さんについても外国表記についてサポートできる体制をさらに充実させていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

ぜひ、やはり外国の方が寄られる、そういう店にはやっぱりそういうものを置かなきゃいけない。能生地域だと名前出しますけど浜寿司さん、最近よく外国の方が来られるということで、マスターが片言で話すんですけど余り通じない。内容までうまく会話できないということで、やっと今、外国人向けのメニューを、もうできるのかな、お願いしてつくっているところなんですけど、その必要性をまだ感じてないんですよね。それだけ町うちに外国の方がまだ入ってこない。そういうルートを知らないということですかね。それその辺をやっぱりしっかりとこういうものがあるんだよというものをPRしていく必要がある。そうすることによって、そういう店たちもみんなやっぱりそういうものを置くようになってくるんじゃないかな。

それからマリンドリームなんですけど、看板だけじゃなくてリーフレットも余り外国語表記のものがないんですよ。24ジオサイトのやつは、しっかりとやっぱり整っているんですけど、そのほかのやつがないに等しいですよ。

その中で私、目についたのはこれなんです、これ。海洋高校の子供がつくった、子供って言うっちゃおかしいか、生徒がつくったやつなんです。これはある何かのマリンでやったときに、外国の方が来たときに見てもらおうということでつくった。これは2階にある店のちらしずしの手書きの絵、あさひ樓のラーメン、それからこれは佐藤菓子屋のかき氷、そして、なかしまのケーキ、おいしいですよ。この中側には、行って楽しいポイント、こういうところがありますよということが、白山神社とか弁天岩だとかといろんなものが載ってます。これはもう学生が、海洋高校の学生がつくったんですよ、これ。それでマリンドリームに置いてある。これは目立ったんですよ。私、あれっと思って見たら、それで聞いたら海洋高校だということで、間違えば悪いんで、きょう学校へ行って確認したら間違いなくうちの生徒がつくりましたと言ってました。やっぱりこういう子供に、生徒たちが一生懸命やってる。これに負けないようなものを市でつくれということじゃなくて、民間の方々が、自分らのところをPRする人たちが、やはりこういうものを自分らでつくるということへ持っていく必要があると思うんです。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘の、やはり自転車の果たす役割、最近非常に高くなっております。そういう中で今、

県の振興局と連携をとらせていただいているんですが、やはりそういう食事するところ、また見学するところ、そしてどこを通ればいいのか、ただ自転車道路にしても全部一連につながってるわけじゃないと思います。白馬からも来たりするし、また富山県のほうからも来る場合もあるかと思っております。そういったやはり統計的にどういうコースで通ればいいのか、どういう形で通ればいいのかという、やはり全体的な計画をつくって、そしてここが見どころ、ここが食事どころ、ここがポイントだとかといろいろやっぱりトータルに決定をして、よそからおいでいただいてもわかりやすいものをつくって早急にしていきたいと思っています。

例えば道路にすれば識別、これは全国共通に何か水色のラインでお示しをしているところもあるわけですので、そういった全国共通の1つのラインをつくっていくことも大事じゃないかなと。それをやはり1つの核をつくりながら、またさらに充実をして広げていくということも大事になっていくんだらうと思いますが、まずは私は統一したものを、まずは糸魚川へ来たら自転車は西から東、東から西へ、また南へ抜けていくという、そういった統一的なもので早目につくっていきたいとは思っておりますので、そういう中において今ご指摘いただいたようなポイントを落とし込んでいけばいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

やはり先ほど私申しましたように、来た人が何を求めて糸魚川へ来て、それに遭遇できたのかどうか、楽しんで帰られたのかというのをやっぱりしっかり確認する必要もありますし、今、市長が言われたみたいにどこに何があるということを点で落としてつなげるという作業がこれから必要だと思うんですね。糸魚川市は見る、食べる、いいところがたくさんあると思うんですよ。それを自転車で行けるところがどこなんだという、おいしいものを、きれいなところをずっと面に落としといて、それをじゃあ自転車での線で結べば行けるんだというところをやっぱり早急につくっていく必要があるというふうに私は思っております。

先日、ヒスイ王国館で全国の10地域を選びインバウンドワークショップが開かれた。専門家の話を聞いたらキャッチコピーなどの話し合いを行ったということですが、これいいなと思って新聞ちょっとよく読んでいったら、外国人誘客実績が高くない全国の10地域を選んだというふうに書かれていたんですが、糸魚川市はまだそんなレベルだということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

決して少ないということではないかというように思っております。宿泊者数においても相当数、今伸びております。その中でやはり運輸局のほうでも去年の大火といった部分もあったりというように聞いておりますので、そういうことも加味する中で、まだ糸魚川は伸びしろがたくさんあるんだということで、この会場を選んでいただいたんじゃないかというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

私もほかにも負けてないというふうに思っていたんですが、余り来てない10に入ったというのがちょっと逆にくやしかったんですが、ただ最後の益田副知事さんが来てたんですかね。地域資源を掘り起こして磨くことが大事だというふうに言ってたんですよ。今ほど市長が言われたみたいに、地域資源いっぱいあると思うんですよ。そういうものをやはり磨ける。ただ、私たち住んでる人たちは身近過ぎて、外国の人が何を欲しいのかというのが、多分ふだんの生活の中にいっぱいあると思うんですけどね。それが私たちがわからないんだなというふうに思うんですが、やはり磨くものがたくさんあると思うんですが、一番なのはヒスイですけどね。いろんなものを早く見つけ出して、磨いて他地域に負けないような、そういう糸魚川市にしていっていただきたいなというふうに思います。

次に、案内板とパンフレット、今もちょっと一緒になってきましたが、先ほども言いましたようにジオパークに関連したものは大体パーフェクトにそろってるというふうに思うんですよ。ただ、先ほども言いましたけど、ジオパークへたどり着くまでの案内掲示板が少し少ないのではないかなというふうに私思うんですよ。その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

いわゆる国道や県道を通れの看板ということになってこようかと思えます。国道につきましては、なかなか看板の設置基準というのが厳しくて、なかなか表記をしていただけないといった部分もありますけども、私どもできる範囲で、今みたいなご要望をお聞きする中で国・県へつなげたり、あるいは市の道につきましては、積極的にご意見を賜る中で整備を進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

私たち日本人から見ても少ないなというふうに、ちょっとわかりづらい部分もあるんですが、これが外国の人だったらジオパークへ行くにしても、どこをどういうふうに行けばいいかわからないというところがあるんですよ。やはりその辺は日本人の目線じゃなくて、やはり外国人の目線で対応していく必要があると思うんですが、その辺はどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご指摘のとおりだと思います。外国人の目線も非常に大事だと思いますので、整備等に当たっては、そんな方の意見も聞きたいというように思っておりますが、先日、レンタサイクルを駅で借りた外国人の方が何を見て移動しているかと見てみましたら、スマホを見て移動されておりました。こういったツールというのも大事なのかなというように思っておりますので、そのあたりを分析する中で検討してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

今そういう時代ですよ。そういうところに乗るようにやっぱりしていかなきゃいけない。外国人の観光客は、大体が東京から糸魚川、例えばまたは長野から糸魚川経由で金沢のほうへ行くと思うんですが、糸魚川の駅を改札口おりても、外国人の方が非常に案内看板がわかりづらいというふうに私は思うんです。わかるというふうに思っとるかどうかわかんけど、私はわかりづらいと思うんです。もう少し出たところにパネルがあるんで、あのパネルずっとそれつけっ放しというわけにいかないだろうけど、そういうものも利用したり、もうちょっと大き目のウェルカムボードか何かを置くとか、それか北口にありますよね、タッチパネル、あんなものを置いて、出たらすぐそこで調べられるような、そういうことはできないんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

北陸新幹線1階のジオパルの整備に当たっては、東京駅と同じような案内表記をしようということで、見出し等については基本的に5カ国語を今表記をしております。

ただ、それがわかりにくいかどうかということではありますが、今、議員幾つかご指摘もいただいております。そういうことを含めて外国人にわかりやすい表示かどうか、再度検証する中で方向を決めたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

案内板がないということじゃないですよ。わかりづらいというのは小っちゃくてわかりづらいと。そこにたどり着けないという意味です。そこへたどり着いて、まず行くところが観光案内所だと思うんです。観光案内所へ行ってもやはりそれらしいものがない。本当うろうろしていれば多分、案内所の人声がけをしてくれるんでしょうか。その観光案内所の人たちが多言語を使えるような方が北と南にいらっしゃるんですか、その辺もお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパルのほうの観光案内所は、JNTOの観光案内所の中では英語なりのパンフレット等が置いてあるということで、カテゴリー1の今、案内所の機能を持っております。市内ではマリンドリーム能生とジオパルが持っているというわけでありまして。

英語につきましては、ジオパルで対応できない場合は、当課に通訳できる職員が2名おりますので、その職員が電話での対応をしております。

一方、いない場合、あるいは土・日につきましては、東京の通訳ができる機関との連携を結んでおりますので、そこの通訳をしていただくといったような体制になっております。いずれにしましても、今後もスマホ等の機能も充実しておりますので、そういった機能も使うことも視野に入れながら、どう案内が円滑にできるかということについて検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

外国の方はどういう気持ちなのかかわからないですが、例えば私が外国へ行ったときに日本語がわからなくて案内所へ行ったら、全て機械との対話だったと。ちょっとやっぱり寂しいですね。やっぱり外国の方が糸魚川市へおきて、温かく自国語で話ができる人がやっぱりいてほしいというふうに思うんですよ。幾ら今、機械時代だからといって全て、今スマホでも日本語でしゃべれば英語で返ってくるという時代ですから、それは可能だと思うんですが、やはり温かみがないなというのを私を感じるんですよ。その辺の対応をもう少ししっかりと、例えば先ほども言いましたけど、IISAの方々が交代でそういうところにいるとかね、何らかのこういう対策をとっていく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。余り機械的に進めるもんじゃないと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

フェース・トゥ・フェースの会話ということであります。またご指摘の方法も含めまして、どういった方法が温かみのあるおもてなしになるかということも、費用対効果も含めながら検討してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

同じ市民向け通知書なんですけど、会話ができない外国人市民が糸魚川にいるわけですよね。そこへ案内を出すとか、例えば広報に、今回の広報ちょっと見たら、余り直接というのはなかった。インフルエンザに気をつけましょうとかというのはあったんですけど、そういうのもやっぱり読めないですよね、糸魚川の外国の住んでる方はね。そういうものをもう少し多言語化できるようなものはないのかということなんですけど、これはどこになるのかな。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本総務課長。〔総務課長 山本将世君登壇〕

○総務課長（山本将世君）

今、広報のお話があったんですけども、そういった、例えば今のインフルエンザであればホームページ等の掲載につきましては、英語変換とか韓国語変換、また中国語変換、字体変換等でできますので、そういったものの中での収集ということになるかと思っております。今の段階では、なかなか難しいんだろう、まだ克服すべき課題が多くあり、難しいのかなというふうに思っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

じゃあ例えば学校へ行って、子供のことを母親に通知する、または地域のいろんな困ったことを、自分に係る困ったことを学校へ行って通知するという、話をするというようなそんな体制はとれてるんですか。学校。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

保護者に学校の様子をお伝えしたいということではありますが、それにつきましては、国際交流協会の方ですとか、そういう方からもご協力をいただいて、学校と保護者との連携をしているところでございます。また、子供たちへの支援につきましても国際交流協会の方からご協力をいただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

外国の方が日本に住んでお母さんが、大体お母さんだと思うんですけど、言葉がわからないと。そういったときに一応全員に案内出すんですか、そういう家庭全員に、日本語じゃない外国語で案内出してますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答え申し上げます。

そのような申し出があったときにそういうふうに対応しているという状況でありまして、全員に対応しているかということ、まだそこまでには至っていないという状況です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

インバウンドに合わせて、今後、外国人がどんどんふえてきますので、それに対応できるようにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で中村議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

2時10分より再開いたします。

（午後1時57分 休憩）

+

（午後2時10分 開議）

+

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。〔16番 古川 昇君登壇〕

○16番（古川 昇君）

市民ネット21、古川 昇であります。

通告書に基づきまして、1回目の質問を行います。

1番、介護保険について。

2017年5月、国会において「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」が成立をいたしました。自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化、それから医療・介護の連携推進、地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進となっております。高齢化が進む中で、一層の地域ケアシステム推進と介護保険制度の持続可能性を維持するために、保険者が地域の課題分析と高齢者が自立した生活を営むための取り組みを強化すること、また、医療介護ニーズの増加が見込まれることから、新たに介護医療院の創設、地域共生社会実現に向けて地域住民の課題発見力向上を図り、公的支援につなぐ体制づくりと福祉計画との連携が明記をされており